

### 第3回奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会の概要

開催日時	平成26年1月31日(金) 午後2時～午後4時
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
議 題	1. 子ども・子育て支援事業計画の構成の検討について 2. その他
出席者	出席委員8人(欠席委員4人)・事務局5人
開催形態	公開(傍聴者:なし)
担当課	子ども未来部子ども政策課
<b>議事の内容</b>	
1. 子ども・子育て支援事業計画の構成の検討について 事務局より、「(仮称)奈良市子ども・子育て支援事業計画」の素案骨子(案)について、資料を基に説明を行った。	
<b>〔質疑・意見の要旨〕</b>	
岡本委員	<p>この事業計画(案)を全体的に見て、現行の2の(1)のところが1本立てだったところが、具体的に幼保の話や教育の充実ということで(1)と(2)に分かれて数が増えています。これはいいと思いますが、現行の「3. 地域で子どもや子育て支援をするまち」というところの地域自体で子どもを育てる環境をつくるという文言と、地域の子育て支援自体の機能を強化するという項目が計画(案)の1の(2)に入り込んでいますが、奈良市の状況から考えて、地域での子育て支援がすごく重要なところだと思うので、地域自体を作っていくという部分と地域の子育て支援自体を強化していくというところは抜かしてはいけないのではないかとというのが1点目です。</p> <p>それから、どの分野でも相談機能が重要だと思いますので、現行では相談という言葉が入っていますが、今後の計画(案)では見当たりません。</p> <p>3点目が、「様々な状況にある子どもや家庭」というこの一括りの「様々」というものをもう少し具体的に言った方がいいのかなという気がしました。全ての子育て家庭を対象にするという大枠と困難家庭をしっかりサポートしますということが計画の中で書けている方がいいのかなと思いましたので、計画(案)の中では1の(3)で「様々な状況」と書いているのですが、例えば経済的な支援とか母子はどうするのかと思いましたが、そこに含んでいるという言い方もあるのかもしれませんが、逆に2の(3)に「障がいのある」ということで、その部分だけ突出していますので、書きぶりをどのあたりまで具体的に書くのか、あるいは「多様な」という表現でのごすのか、その辺りを揃えた方がいいのではないかと思います。</p>
事務局	現行の次世代計画で言いますと、3番で「地域で子どもや子育てを支援

するまち」というところがあるのですが、事業計画（案）の柱立てを考えるにあたりまして、全ての子どももしくは子育て家庭が対象になるという考えをメインにしましたので、1つの柱というよりも1番の中でまとめてみてはどうかということでお示しさせていただきました。地域での子育てを支援するという取組を全く軽視ということでもありませんが、書きぶり、それから見える形でどう表すことができるのかというところは工夫したいと思います。

2点目の相談というキーワードが今後の取組の中では見えてこないというご意見ですけれども、3番目の「様々な状況にある子育て家庭への支援の充実」という中に入れてあります。現行の計画でいう（3）で「様々な状況にある」という基本施策ですが、その構成というものが障がいを持つ子どもに対する支援、2つ目がひとり親家庭、3つ目が虐待の関係です。そういったものを1つの項目として（3）ができていたのですが、その中から障がいのある子どもへの支援というものを新しい事業計画（案）の2の（3）に抜き出した形になっています。ただここでも書きぶりや見せ方というものが大事ですので工夫したいと考えております。

掘越委員

3本柱でいこうと考えられているのですが、どれがどこにつながっているのか、確認していったほうがいいだろうと思いました。現行の「子育てに関する相談及び経済的支援の充実」という部分は、計画（案）の1の（3）の方に入っているものと、3の（1）にも関わっているものがあるのでしょうか。また、相談とか経済的支援という内容をワードとしてカッコ付けすることも有り得るのかなと、つまりこれを読んだ利用者や市民の方がわかるような形になっている方が望ましいかもしれないと思いました。

2番目については、今まで「子どもがいきいきと心豊かに育つまち」ということで大きく捉えられていたものを、年齢で対応していこうとしていることは良いのかなと思うことと、障がいということについては、最近非常にニーズが高いということがあるので、そこの支援に力を入れていきますということを示すのも良いかなと思いました。

新しい計画（案）の3の（1）に関して、これが柱としてあるとは思いますが、いろんな内容が入ってきそうな部分もありそうなので、それぞれを説明するところで丁寧に触れるようにしていただきたいと思います。

浜田代理

この3本に絞るということもいいのですが、2はすっかりしましたけれども1と3が何かすっかりしません。

岡本委員

幼保一体に向けて新しい取組をしますよ、ということで2は非常によくわかりますが、1と3の違いは何でしょうか。ここにメニューが入ってく

るわけですから、どう整理するかが大事です。

1 番目の安心して生み育てられる環境を整えるということの中には、ワーク・ライフ・バランスとか母子保健とか医療とか経済的に困窮している家庭、特別なニーズのある家庭への支援というものがそのメニューの中に入ってくるのかなというイメージです。そして全ての子どもが育っていく環境を整えることの中にはもちろん地域を醸成することもありますし、子育て支援や相談機能を強化していくというようなこともあるのかなというイメージがあるのですが、無理に3本に入れるとすればどうでしょうか。

事務局

この資料では柱だけが書いてあって、具体的にどの事業がどこにつながっているのかということをお示しできていませんので、別途資料を提示したいと思います。

ワーク・ライフ・バランスに関して現行の計画で言いますと、1の(1)「仕事と子育ての両立支援の充実」というところで、中身が2つに分かれる形になっています。1つ目が「男女共同の子育ての促進」、2つ目が「多様な子育て支援サービスの充実」という2本の柱になっておりまして、1つ目の「男女共同の子育ての促進」というところで、ここが男性の家庭参画というものであったり、育児休業の取得促進といった取組に力を入れている事業者を支援する事業といったものがありますが、大半の事業が2つ目の「多様な子育て支援サービスの充実」にまとめられている形になっておりますので、ワーク・ライフ・バランスということで新たに抜き出してみてはどうかということで提案しております。

この柱は3つになるのかなと考えていますが、項目はこれで最終決定ということではございませんので、色々なご意見をいただいた上で、検討していきたいと思います。

浜田代理

できるだけ市民の方がわかりやすい柱立てということが大事だと思います。年齢ごとに分けるとか、項目ごとに分けるとか、柱があればすっきり入りやすいと思うのですが、2番目はすっきりするのですが、1番と3番がなかなかすっきりしないなと思います。

おそらく細かい項目から逆算して組まれたから、私たちが理解できていないのでしょうか。発達段階ごとに分けるとか、あるいは担い手ごとに分ける、例えば、子ども条例の分野では担い手ごとに分けています。子ども当事者、それから子育て家庭、学校などの施設、そして地域という形で分けています。

掘越委員

1番、2番、3番と進んだときに、例えば2番目のところは基本的に「子ども」が主になっているわけですね。もし地域ということ意識するの

であれば、ここにも地域として育てるといような項目があると、地域というキーワードが弱ってしまったという感じは受けないかもしれません。

1 番目のところについては、全てと説明されていますが、どちらかという親の側、保護者側に主眼を置いた形にして、その中にも妊婦さんや養育する人を支えるというところを主に考えられているということでしょうか。そうすると3 番目については、現行の1 番にあった男女の共同の視点ですとか、仕事と生活というそのあたりを意識した項目になるのでしょうか。1 番と3 番の位置付けの違いを明確にできたらと思い、確認させていただきました。

浜田代理 今のご意見ですが、1 番目は子ども・子育て支援と書いてありますが、子育てとか親支援ということ、2 番目は子ども支援や子ども当事者支援とか子ども主体、3 番目が仕事でしょうか。

今度の全体会では、これにつながる各施策の見取り図が見えたらもう少し整理されるのかなと思いました。他市の会議でも見取り図が出ていたので、それが説得材料になりました。そうすれば、ここに入れたらややこしいなということが私たちもわかりますので、3 本にまとめるとしても今のようなご意見を参考にさせていただけたらと思います。

5 ページの基本理念も大事ですが、よろしいでしょうか。基本理念、基本方針、これを基に先程の3 本柱になるのですね。この2 つの基本方針は10 年間変わっていないのですか。

事務局 説明の文章は変わっていますが、柱自体はこのままです。

岡本委員 現行の行動計画を見ていると、この4 つの基本目標が3 本柱になるということですね。今後どこに力を入れて事業をやっていきたいと思いますと表明する時に、4 つあるものを3 つにすると説明がありましたが、もちろんスマートに入り込めばいいのですが、釈然としない感じがします。このタイトルも目立つところなので重要だと思いました。何となくふんわり表現して全部を網羅しているように見せるよりは、ちゃんと目標としてこういうことに取り組みますということが明確になるほうがいいと思います。

浜田代理 子ども条例の分野ですと、子どもは社会で育てることが最初に出てきます。親を追い込まない、そして子どもと大人のパートナーシップということも大きなキーワードで、奈良市でも「子どもにやさしいまちづくり条例」ということで、現在作っているところです。全てが一緒じゃなくていいのですが、理念があんまりころころ変わっても困りますし、国とずれてしまっても困りますけど、おっしゃるように「奈良はこれをやる」と

いうメッセージをもっとハッキリ出したほうがいいのかもかもしれません。

岡本委員 基本方針は2つだと思います。子どもの育ちを優先しますということが1本目で、2本目はそれを作る環境を設定しますということで大枠はそれでいいと思います。それを目標設定として資料1の7ページのように具体的に項目を立てて基本目標として掲げていきますので、もう少しわかりやすいほうがいいと思います。

掘越委員 基本方針を変えたほうがいいと言うつもりは全くありませんが、1つ目の基本方針に関しては、子どもの利益を優先すること自体は揺るぎないものだと思いますが、ここの説明を見たり、先程の説明を聞くと、「全ての子どもと家庭」というところが入っているなと思いました。子どもの利益を優先し、子育て家庭の支援を頑張っていくということを示す上で、その辺りが出てこなくていいのかと思います。

2つ目は、大人も豊かになれるというところで示しているんだと言われれば、そのとおりですが、「触れ合う体験を通じて」となりますと、やはり次世代ということで中高生を育てるというところが全面に出ているんじゃないかなと思いましたし、その下の説明にはワーク・ライフ・バランス的なことも書かれていたので、触れ合う体験を通じてとなると、ここだけ具体的で少し違和感があるというか、もう少し工夫ができないものかという感想を持ちました。

岡本委員 まさにそのとおりで、基本方針の1番はほんわか大きいのに、2番だけが具体的になっています。浜田委員がおっしゃった「社会で育てる」ということは1番に入るのでしょうか。

浜田代理 子ども条例も作成中の段階ですが、検討していく中で、どういう子ども観でいくのか、親を支援していく時にどう考えていくのか、地域の役割は何かということ、柱にして文章にしていきました。確かに基本方針の1番はかなり大きいですが、2番はかなり具体的ですよね。分かりやすさということで、これで進んできたのかもかもしれません。

掘越委員 分かりやすさで言うならば、1番のところを例えば家庭を支えるという視点、「子ども一人一人の最善の利益を優先し、全ての家庭を社会で支えていく」というような内容が明確化されているほうがわかりやすいのかなと思います。あと、2番は触れ合う体験ということで次世代なんだなとわかるころではあるのですが、そうするとワーク・ライフ・バランス的なことも1番に内容的に書き込まれていく部分もあるのかなというイメージを

持ちました。これから育つ人たちをしっかりと計画の中で育てていきましようということも大事なところなので、わかりやすさということであれば、両方揃えてわかりやすくなるといいなと思いました。

事務局 一点確認させていただきたいのですが、基本理念や基本方針というところで、これからの取組の目標を考えていく上で、基本方針の1番目のご意見にありましたように、広い範囲で記載されているのですが、2番目はかなり具体的なことが記載されていまして、説明文がどの事業につながっているのかというところが、市民の方が見た時にどういう見方をされるのかなということがやはり気になります。

浜田代理 基本理念は包括的なものだと思うんですね。基本理念の1番目は、どんな子どもになってほしいかということですし、2番目が子育てしやすい社会ということですね。それに比べると基本方針の1番目は子どもの権利条約の一番中心の概念ですけれども、2番目は方針というよりも具体的な事業のような印象を受けます。5年前は目新しかったのでしょうか。

岡本委員 私はもっと大きく考えていまして、1つ目の柱は子どもがどう育つかというところで、2つ目は地域や社会で育みましょう、つまり地域で子育て環境をどう醸成するかという話が2つ目かなと思って読んでいたのですが、よく読んでみると全く違って細かかった。1つ目は子ども・子育て家庭へのサポート、2つ目がそれを作っていくための社会環境への働きかけをどう作っていくかという話なのかなと思いました。次世代をどう育成するかということもありますが。

浜田代理 例えば中身の3行、4行の文章を、後の3本柱にもう少し合うような内容を記載することも考えられますが、2つの基本方針から3つの基本目標に分かれるとクロスしないでしょうか。他市の状況もそうですが、一点参考にしていただきたいことがありまして、「〇〇のまちづくり」という時に一番の柱となる部分について、奈良市の「子どもにやさしいまちづくり条例」が今後制定されますので、例えば「子どもたちの笑顔が輝るまちづくり」を「子どもにやさしいまちづくり」としていただくと、中身は少し違っても、キーワードが一致しているなど確認することができます。次世代計画で10年間使われていたものですので、簡単には変えられないかもしれませんが、どこかに「子どもにやさしいまちづくり」を記載していただければ関連性があるなと思いますので、よろしくお願いします。

9ページの需要分析の結果によっては中学校区を柔軟に組み合わせしていくという提案に関しては、何かご意見いかがでしょうか。

岡本委員 中学校区を組み合わせるといったことはどういうイメージですか。

事務局 全く離れたところを都合よくという形ではなく、実際の施設であったり事業の利用状況であったり、ニーズを勘案して、隣接する複数の中学校区で一つの提供区域ということで組み合わせることができないかということです。

山岡委員 奈良市の中学校区は22校区ありますが、その中で未就学児童数を挙げますと、1つの中学校区で1,300名というところもございますし、その一方で、40名程度のところもあるので、そのような校区は組み合わせることはどうかということも考えられます。

岡本委員 厳密に中学校区でやってしまうと、「自分の住んでいる中学校区にはない」となってしまったらいけないということですよ。それはそれでいいと思います。

浜田代理 提案のとおりでよろしいでしょうか。わかりました。

岡本委員 9ページの量の見込みと確保方策のところ、ニーズ調査に無かったものを軽視しているわけではありませんが、この地域子ども・子育て支援事業の中で本当に在宅で使える事業を考えたら、地域子育て支援拠点事業や、ファミリー・サポート・センター、一時預かりだと思います。延長保育等は、在宅の地域の子育て支援の事業ではないだろうと思いますし、病児・病後児も違うだろうと思いますし、どちらかというところと拠点事業とファミリー・サポート・センター事業と一時預かり事業ぐらいに特化してニーズを拾ったほうが、はっきりわかるのかなと思いました。全部の事業を同じように並列して記載するのではなくて、やはり地域の子育て支援の事業はこれだ、というものに特化して記載していただきたいと思います。

事務局 今、岡本委員から大事なご意見があったのですが、それと関連しまして資料1の10ページのところで実施計画の記載イメージということで挙げていまして、これは国が示している形ですが、これをそのまま出してしまうと、地域で提供されている事業だけではなく、上段の①から③の認定区分があって、これが幼稚園・保育園のことを表しているのか、何の事業のことを表しているのかということが、利用者の方が見た時にわからないと思います。詳細なものは資料編に載せるなり、別冊にするなりしまして、実際に計画の一連の流れで出すときは、見せ方も大事ですので工夫したいと考えております。

掘越委員 中学校区を基本として、総合計画や介護保険等の分け方を参考にフレキシブルに結果を提示していくことは、とても良いかなと思っています。

12ページの「6. 計画の推進体制について」のところで検討のポイントとして挙げていただいたものについて、3番目の費用対効果のところ、それが「評価に直接つながるかどうかが不透明なことから、明記しない方向での検討はいかがでしょうか」と記載されていまして、これは前回にも出ていたように思うのですが、もう一度この部分について説明をお願いします。

事務局 3番目の費用対効果というところですが、国の基本指針の中でもこの費用対効果について若干触れられているということと、国の子ども・子育て会議の中でも委員から費用対効果を書くべきではないかという意見が確かに出ています。確かにその観点は大事なところですが、ここで金額の大小が直接評価につながるかどうかということがあり、例えば保育園を1園建てるだけでも莫大なお金がかかります。そこで投入したお金をはっきりと示すことができますが、その効果の表し方が非常に難しいと考えておまして、それが「1園できました」で終わるのか、「待機児童が何人減りました」という言い方になるのか、もしくは「満足度が上がりました」となるのか、いくつかパターンがあると思いますが、表し方によって評価の仕方が分かれてしまうと思います。あとは費用というところで、細かい部分まで算定できない事業もありますので、今後5年間の計画ですので、5年間の経費を見積もるのも難しいことありまして、もちろんこの子ども・子育て会議の中で資料として提示させていただきますが、直接計画の中では5年間でこれだけお金をかけますよ、ということは明記しない形になるという意味合いで記載させていただきました。

岡本委員 事業にいくらお金がかかっているのかがないと、事業の評価というのは難しいのではないのでしょうか。費用対効果という時に、先程おっしゃったようにいろんな評価の仕方がありますが、それをまずさらすという勇気があるのかなと思います。それを例えば1園建てるのにこれだけのお金がかかって待機児童がこれだけ減ったということであれば、今ある社会資源を利用して柔軟なソフト事業を展開して行って、待機児童を減らしたほうがいいんじゃないか、という次の議論ができると思います。評価というものは、やったことを振り返るためではなくて、次にどう発展的に進めていくかというために行うので、費用抜きにはおそらく語るができないのではないかと、特に市民の方であればそう言うだろうなと思いました。

掘越委員 私は示し方だろうなと思います。つまり、費用対効果の費用の件につい



て、全く触れないのはとても不自然だと思いますので、どのように提示したらいいのかということは、いろんなご意見があると思いますので、工夫が必要だと思っています。やはり全く明示しないという形になると誤解を生みますし、その効果がどの程度あったのかという出し方についても、他の自治体と情報が交流できれば一番いいと思いますが、比較的満足度は上がるのかなと思います。ただ、整備できたところにはお金が非常にかかっている、整備できなかったところはそこまでかかっていないという差が生まれるので、そこを危惧されているのかなと思ったのですが、例えばこども園を新設したとかそういう形で区域で区切らず、市全体としてどうしたか、この事業にこのように投入したということは、少なくとも出すべきだと思いました。その工夫をご検討いただければと思います。

## 2. その他

事務局より、次回会議の日程について説明を行った。

<p>資 料</p>	<p>【資料1】 子ども・子育て支援事業計画素案骨子作成に向けて          【資料2】 奈良市次世代育成支援行動計画（後期）と国の基本指針（案）との比較について          【資料3】 量の見込みの算出等のための手引き（国資料）</p>
------------	---